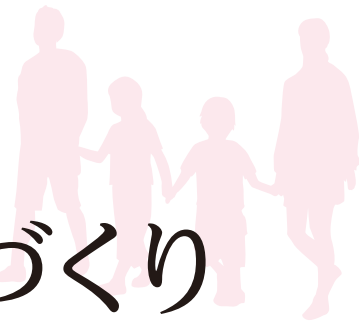




特集

みんながつながる “お互いさま”の地域づくり



私たちの暮らしの基盤となる「地域」。今回の特集では、住み慣れた地域で安心して暮らしていくために必要な仕組みを、町が策定した「地域福祉計画」をもとに考えます。

問い合わせ 福祉課

幸せな生活を送るための
「地域福祉」

皆さんは「地域福祉」という言葉から何をイメージしますか。「そもそも福祉って何だろう」と思う人も多いのではないのでしょうか。福祉は一人暮らしの高齢者や子育てに悩む人、障害のある人、経済的な不安を感じながら生活している人など、一部の人だけが受けるサービスというイメージもあるかもしれません。

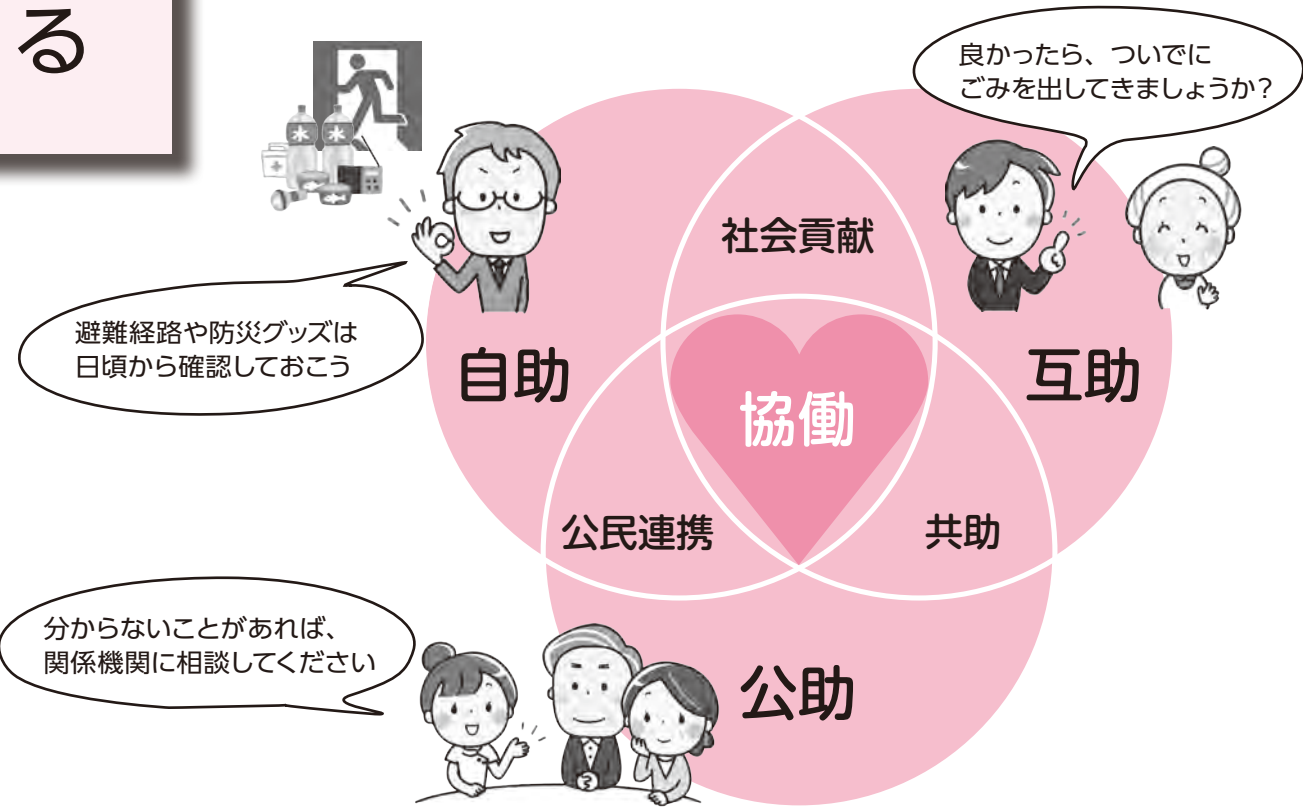
しかし、福祉は何かに困っている人が受けるサービスだけを指すものではありません。社会で生活する一人ひとりが、安心して幸せに生活できるようにするための活動やその仕組みのことを意味しているのです。

「地域福祉」は、福祉という言葉に地域の要素が加わったものです。つまり、「誰もが自立しながらもお互いに支え合い、住み慣れた地域で幸せに暮らせるようにするための活動やその仕組み」という意味になります。

人と人とのつながりが必要

社会環境や家族構成、人々の価値観、ライフスタイルの変化などを背景に、地域が抱える課題は多様化しています。こうした中、人や地域との関わりがなくても生活

みんなで進める 地域福祉活動



「お互いさま」の心で助け合い

できるようになるなど、地域とのつながりが希薄化。その結果、近所での助け合いが少なくなっています。

しかし、平成23年3月に発生した東日本大震災以降は、地域の絆の大切さが改めて認識され、住民の意識も大きく変わったことで、地域ぐるみの助け合いや支え合いの重要性が高まっています。

地域ぐるみの助け合いや支え合いの輪を広げていくためには、「みんなが地域づくりに関心を持って参加できる仕組み」が必要です。地域の中には、子育てや介護などの不安、買い物やごみ出しといった日常生活でのちょっとした困りごとなど、さまざまな問題を抱えた人がいます。

日頃から自分でできることは自分で行い、本人や家族の力で解決することはもちろん大切です。しかし、本人の力には限界があり、それだけでは解決できない問題もあります。

こうした問題は決して「他人事」ではなく、誰もが「支える側」と「支えられる側」になる可能性があります。地域が抱える問題を「我が事」としてとらえることで、みんなが地域づくりに関心を持って参加することができるのです。



「お互いさま」の 気持ちで取り組もう

「ちょっとした手助け」が 地域をつなぐ「架け橋」になる

ごみ出しの手伝い



配達ボランティア



児童の見守り



手助けの仕組みや居場所づくりを考える

「話し合いの場」

地域での助け合いや支え合いを具体的に実現するため、みんなで意見を出し合い、アイデアを膨らませる「話し合いの場」を催しています。

平成 29 年度は計 6 回開催。地域住民、事業者など延べ 291 人が参加し、子育て世代や障害のある人、高齢者などが必要としているちょっとした手助けや地域の居場所づくりについて考え、具体的な取り組みを話し合いました。



和

和やかな雰囲気
意見を出し合えた。

活

参加者の活動意欲
が強く感じられた。

参加者に聞きました

「話し合いの場」
を漢字 1 文字で
表すと？

知

知らないことを
発見できた。

絆

人と人とのつながり
が大切だと思った。



日本傷痍者更生会
ふれ愛の郷
施設長 中西幸子さん

地域では多くの人や団体が活動されていますが、私たち事業者も地域の一員として、地域福祉に貢献したいと思っています。そのためには、地域の人たちに私たちのことを知ってもらう必要があります。そこで、誰もが集える認知症カフェの運営や職員の地域活動への参加を通して、地域とのつながりを深めています。

私たち事業者が、単なる「サービスを提供する」だけでなく、地域の福祉拠点として、皆さんとともに歩んでいけるようにしたいと思います。

地域の一員として
活動に貢献したい

多くの人に
活動を広めたい



高倉区区長・
岡垣町主任児童委員
筒井信秋さん

地域福祉活動を広げるには、人と人のつながりが大切です。そのため、私はまず「地域にどんな人がいるのか」を知ってもらえる場所づくりを心掛けています。

例えば、高倉区のふれあいサロンは子ども会と連携し、子どもから高齢者まで誰もが参加できる環境にしています。いろんな世代の人が交流できることで、お互いを知りあうきっかけが生まれるのです。

今後はこうした場に、事業者にも地域の一員として参加してもらえる取り組みを進めていきたいです。



地域と協働でまちづくりを

近年、人口減少や少子高齢化などで地域を取り巻く環境は大きく変化し、虐待や孤独死、生活困窮者への支援や災害時の対応など、地域が直面する課題は複雑で多様化しています。こうした課題の解決には、住民の皆さんや関係団体、事業者、社会福祉協議会、行政の連携が欠かせません。

今後も、すべての人々が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、人と人とのつながりを大切にしたい地域福祉の取り組みを進めていきます。

岡垣町長 宮内實生

地域福祉計画を策定しました

住み慣れた地域で誰もが幸せに暮らし続けるために欠かせない「地域福祉」。町では、平成28年から住民意識調査や住民ワークショップ、福祉団体・施設へのアンケートなどを行い、皆さんからの意見を集約し、平成30年3月に地域福祉計画を策定しました。

地域福祉計画は、町がすでに策定している高齢・障害・児童分野の福祉計画の横のつながりを強化させ、地域福祉の理念や仕組みを作るためのものです。住民や関係団体、ボランティア、事業者、社会福祉協議会、行政などが一体となり、ともに助け合い、支え合う「地域ぐるみの福祉」について定めています。

いかに暮らす誰もが対象者

地域福祉計画は、ほかの福祉計画のように対象者が限定されるものではなく、岡垣町に暮らすすべての人が対象です。また、計画の策定はゴールではなく、今後の推進が必要です。地域で安心して暮らせるために、地域で安心して暮らすこと、まずは一人ひとりが身近なことから取り組みましょう。そして、みんなの力で「地域ぐるみの福祉」を実現させましょう。